

記者発表(発表・資料配布)				
月／日 (曜日)	担当事務所名 (担当課名)	TEL	発表者名 (担当)	その他 配布先
3/16 (火)	西播磨県民局県民交流室 (地域づくり課)	0791-58-2116	元気づくり参事 大北 光弘 (山城復活プロジェクト専門員 西村拓也)	—

「篠ノ丸城(ささのまるじょう)想像復原図」複製 贈呈式の開催について

西播磨ツーリズム振興協議会*¹(事務局：西播磨県民局)では、管内に130以上ある山城をはじめとする史跡や伝統文化体験を活用し、西播磨地域への誘客を図る「西播磨山城復活プロジェクト」*²に取り組んでいます。なかでも主要な山城を山城11(イレブン)*³と銘打ち積極的にPRしています。

ARアプリ等に活用するため中世城郭研究家 木内内則(きうちただのり)氏に作成を依頼していた、「篠ノ丸城」(宍粟市)*⁴の想像復原図が完成したことを受け、観光振興等にも活用するため、同複製を宍粟市に贈呈することとし、次に記載のとおり式典を催すこととしました。

また、来訪者に広くご覧頂くため、その複製を山崎歴史郷土館及び兵庫県西播磨総合庁舎に展示いたします。

こうした取り組みを広く周知するため、取材、記事掲載等ご協力をお願いします。

[贈呈式]

1 日 時 令和3年3月18日(木) 14:00～ (宍粟市定例記者発表内)

2 場 所 宍粟市役所 3階 庁議室(山崎町中広瀬133番地6)

3 贈呈絵画 題名：篠ノ丸城想像復原図

原画サイズ 748mm×948mm 水彩画、複製 B1サイズ(728mm×1030mm)

作者：中世城郭研究家 木内 内則 氏(73歳・神戸市在住)

本職の額装業の傍ら、約50年にわたり播磨地域を中心にこれまで300以上の山城をメジャーで測量し縄張り図(城郭平面図)を作成。うち25以上の山城について水彩による復原図を作成。これまでの復原図は兵庫県立歴史博物館、たつの市立埋蔵文化センター等で展示実績あり。

[展示場所] 山崎歴史郷土館 宍粟市山崎町鹿沢81(宍粟市立図書館2階)
西播磨総合庁舎1階県民ホール 赤穂郡上郡町光都2-25

※1 西播磨ツーリズム振興協議会

西播磨地域の豊かな自然や史跡、文化施設・体験・交流施設等多彩なツーリズム資源を活用し、地域住民の参画と協働のもと、西播磨のツーリズム振興を図るとともに、地域の活性化に資することを目的として、西播磨県民局や市町、観光協会等ツーリズム関連団体が地域づくり活動家の協力を得て、平成15年7月4日に「西播磨ツーリズム振興協議会」を設立。



※2 西播磨山城復活プロジェクト

西播磨ツーリズム振興協議会が実施主体となり、利神城や白旗城をはじめとする、西播磨の山城や城下町の町並み等を整備・活用し、伝統文化体験や西播磨ならではの食を楽しめる山城歴史絵巻ツアーやモデルコースの開発、現存しない山城のAR（拡張現実）アプリの制作、眺望や登山道の整備、観光ガイドの養成などを展開し、交流人口の増大を目指したプロジェクト。

※3 山城 11(イレブン)

利神城（佐用町）、感状山城（相生市）、白旗城（上郡町）、篠ノ丸城（宍粟市）、龍野古城（たつの市）
尼子山城（赤穂市）、楯岩城（太子町）、城山城（たつの市）、長水城（宍粟市）、上月城（佐用町）
坂越浦城・茶臼山城（赤穂市）

※4 篠ノ丸城(標高 324m)

初代の城主については諸説あるが、赤松氏の分流である釜内範春、あるいは赤松円心の孫にあたる赤松顕則が貞和年間（1345～50年）頃に築城したともいわれる。嘉吉元年（1441年）、嘉吉の乱で一旦落城し、赤松政則による赤松家復興後は、宇野氏が居城するところとなった。天正8年（1580年）、羽柴秀吉による播磨攻めの際に、長水城とともに落城。『黒田家譜』に記載された黒田官兵衛が初めて城持ち大名となった「山崎の城」の可能性もある

